

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年2月24日～2014年3月2日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成26年3月6日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼「統一ロシア」党と「アムツァハラ」党が協力(28日)

・クリモフ「統一ロシア」党評議会議長らがアブハジアを訪れ、「アムツァハラ」党の代表者らと会談。両党の協力について協議した。

・現在、アブハジア「議会」35議席のうち「アムツァハラ」党の会派は18議席を占める。

#### 【南オセチア】

##### ▼露国境警備隊による行政境界線上の鉄条網の再開(24日)

・露国境警備隊による南オセチア行政境界線上の鉄条網などの設置はほぼ2カ月止まっていたが、カレリ地区ゴゲティ、アトツィ付近で再開された

・25日、グルジア外務省は鉄条網の設置を非難し、国際社会に対し「ロシアの不法な行動を止める実効的な方策をとる」よう呼びかける声明を発表。

##### ▼第42回PRM会合(27日)

・最近の拘束や犯罪事件を含む治安状況を検討。フェンスの設置が現地住民の生活に与える影響について、具体的な事例について議論。農期が近づいているため、共同議長は耕作地へのアクセスに関し実際的なアプローチをとるよう呼びかけた。水・電気の供給の問題に関しては建設的な議論が行われた。

### 2. 外 政

#### ▼ウクライナ情勢

・22日にウクライナ最高会議がヤヌコヴィチ大統領の解任を決定し、新たな政府の樹立に向けた動きが進んだことに対し、24日、グルジア外務省は、「ウクライナの困難な状況の正常化に向けて踏み出された歩みを歓迎する」との声明を発表。更に27日には、ウクライナの新政府の承認を歓迎するとともに、新政府が危機を克服するべく実務的な措置をとることを期待するとの声明を発表。

・クリミアで進行している事態に対し、3月1日、マルグヴェラシヴィリ大統領は、「露連邦による他国内でのパスポートの配布、軍事インフラおよび部隊の強化、ウクライナに暮らす『同胞の利益』を軍事力をもって守るという決定は、主権国家に対する粗暴な干渉であり、ウクライナの主権・領土一体性が守られるよう、国際社会があらゆる手段を講じることを呼びかける」との声明を発表。ウスバシヴィリ国会議長も「2008年8月にグルジア

で実現できなかったことを実現し、国際社会がロシアに隣国を侵略させないよう希望を述べる」との声明を発表。

・同1日、グルジア外務省は、ロシアの行動は「ウクライナに対する侵略の開始を意味するものである」として、「必要な措置が取られなければ、我々は欧州における新たな占領の目撃者になるであろう。我々はその例を既に自ら経験している。グルジアに対するロシアの侵略もこのようにして始められた」との声明を発表。

・3月2日、「パ」外務大臣は、デシツァ・ウクライナ外務大臣代行と電話会談を行ない、ロシアによる侵略を非難し、憂慮を表明した。「デ」ウクライナ外務大臣代行は、クリミアが事実上占領下にあるとして、EU・NATO諸国の外務大臣の会談が具体的な結果をもたらす期待を述べ、国際社会による実効的な関与の必要性を強調。ウクライナ政府にはEUとの連合協定に署名する用意があり、それに向けた作業の再開が決定されたと述べた。

・同2日、ガリバシヴィリ首相は、「国際社会は、ウクライナの独立、主権および領土一体性の侵害を許さぬよう、あらゆる努力を講じ、ロシアに軍事行動を断念させねばならない。さもなければ、我々はグルジアが既に直接経験した侵略と占領を再び目撃することになるだろう」「我々はウクライナ国民および真に民主的な欧州国家を築くという彼らの決定に対する無条件の連帯を今一度表明する」との声明を発表。

##### ▼ガリバシヴィリ首相がオバマ米大統領およびバイデン米副大統領と会談(24日)

・訪米中のガリバシヴィリ首相はホワイトハウスでバイデン米副大統領と会談。途中からオバマ米大統領が会談に加わった。オバマ米大統領との会談は事前に発表されていなかった。パンジキゼ外務大臣によれば、会談は予定されていたが米側の要請で事前に公表されなかった。

・会談では、戦略的パートナー関係、グルジアのEU・NATO加盟の展望、およびグルジア政府によって実施された改革が主な議題となった。

・オバマ米大統領とバイデン米副大統領は、グルジアが米国の「価値ある友人、信頼のおけるパートナー」であることについて「ガ」首相に感謝を述べ、グルジアの主権と領土一体性に対する米国の強い支持を再確認した。

・会談後「ガ」首相は、「グルジア・米国関係は新しい段階に移りつつある」として、「グルジア政府は米側から全幅の支持を得た」「非常に前向きで実り多い会談であった。米国は最も重要な戦略的パートナーであり、我々は両国の関係を強化するために最大限に努める」とコメント。

・同24日、「ガ」首相は共和党、民主党の上院議員およ

び2013年にグルジアに対する1億4000万ドルの投資プログラムに署名した「Millenium Challenge Corporation」の最高責任者と会談を行なった。国際民主研究所主催の夕食会でオルブライト元米国務長官と会談。

#### ▼ガリバシヴィリ首相が米シンクタンク「Atlantic Council」で講演(26日)

・NATOは9月の首脳会談でグルジアに対しメンバーシップ・アクションプラン(MAP)を与えるべきであると明言。また、EUが、要求を達成した東方パートナーシップ諸国に対し、EU加盟を明確に約束するよう求めた。

・「アメリカの声」の記者から「サーカシヴィリ前大統領はグルジアに帰国できるのか」と質問され、「彼はグルジア国民であり、帰国には何の問題もない」と回答。

#### ▼ガリバシヴィリ首相がケリー米国務長官と会談(26日)

・グルジアに対する経済的・外交的な脅威、EU統合に向けた努力、ウクライナ情勢など幅広い問題について議論。会談後、ケリー米国務長官は「戦略的パートナー関係がこれほど強くなったことはない」として、EU・NATO加盟を目指すグルジアに対する追加的な支援を行なう計画に言及した。また、グルジア政府によるアブハジア、南オセチアとの「和解の努力」への支持を表明。

・会談後、第4回米・グルジア戦略的パートナーシップ委員会の全体会合が行なわれた。ケリー米国務長官は挨拶のなかで、法の支配の追求および地方選に関し強い野党の存在と公平な条件の提供の重要性を強調した。

#### ▼アラサニア国防大臣がブリュッセルを訪問(26日-27日)

・デ・ルジエ EU 軍事委員会委員長と中央アフリカ共和国でのグルジア軍部隊の活動の詳細について会談。ブロードラヴ米欧州軍司令官とアフガニスタンでの活動について会談。NATO本部で開かれたNATO国防相会合に出席。ノルウェー、アゼルバイジャン、アフガニスタンの国防大臣と会談。

#### ▼マルグヴェラシヴィリ大統領がアルメニアを訪問(27日)

・セルジュ・サルグシャン・アルメニア大統領、ティグラン・サルグシャン・アルメニア首相およびアブラハミャン・アルメニア国民議会議長と会談。

・大統領会談では、二国間協力、インフラ・プロジェクト、経済関係、地域的な安全保障などについて議論。「マ」大統領はアルメニアの大統領をグルジアに招待した。

#### ▼アバシゼ対露関係首相特別代表とカラーシン露外務次官の会談が延期される(28日)

・3月4日~5日にプラハにて予定されていた会談は、アバシゼ特別代表によれば、「カラーシン露外務次官からの提案により3月14日に行なわれることになった」。

#### ▼米国務省が人権報告書を発表(28日)

・グルジアについて主な問題として、野党「統一国民運

動」所属の地方の政治家の罷免・辞任が続いていること、同性愛者らに対する社会的な暴力、宗教的少数派の集会の妨害を挙げ、これらの問題に対する政府の対応が不十分であると指摘している。

#### ▼アラサニア国防大臣が仏国民議会で演説(3月1日)

・仏国民議会で「グルジア—欧州の安全保障のプレーヤー」と題した会議が催され、アラサニア国防大臣が出席。「ア」大臣は、グルジアの直面している課題、グルジアの役割と能力、NATO・EUとの協力の展望と必要性について演説。「ロシアはグルジアのNATO・EU加盟が変更できないことを理解すれば、グルジアに対する態度を変えるだろう」として、今年のNATO首脳会議でグルジアにMAPを与える必要性を強調した。

#### ▼フランスとドイツの外務大臣のグルジア訪問が延期される(3月2日)

・3月3日~4日に予定されていたフランスおよびドイツの外務大臣のグルジア訪問は、ウクライナ情勢を受けて3日にブリュッセルでEU外相会談が行なわれることになったために延期された。

### 3. 内 政

#### ▼アハライア元国防大臣の弁護士が逮捕される(23日)

・数件の起訴を受け、現在、審理前勾留下にあるアハライア元国防大臣の弁護士を務めるゴガ・オニアニ氏が、トビリシのグルダニ・ナザラデヴィ地区の警察の副署長を務めていた2011年に証拠を偽造し違法な拘束を行なったとして逮捕された。

・6月の地方選でトビリシ市議に立候補することを既に発表していたオニアニ氏は逮捕が政治的な動機に基づくものであると主張。野党「統一国民運動」は、検察がオニアニ氏を逮捕したのは、氏の弁護により既に2件でアハライア元国防大臣の無罪判決が下ったためであるとして、検察を非難する声明を発表。

・26日、トビリシ市裁判所は審理前勾留についての検察の求めを退け、保釈を決定。保釈金は2万ドル。

#### ▼メラビシヴィリ元首相に対する有罪判決(27日)

・2011年5月25日から26日にかけてトビリシ中心部で行なわれていた政府に対する大規模な抗議デモを解散させるため、当時、内務大臣であった「メ」元首相が警察に過剰な力の行使を命じたとして、トビリシ市裁判所は「メ」元首相を有罪とし、4年6カ月の禁錮刑を科した。審理前勾留の期間も刑期に含められるため、残る刑期は3年9カ月。「メ」元首相の弁護士は控訴の意向を表明。

#### ▼仏裁判所がケゼラシヴィリ元国防大臣の送還を拒否(27日)

・仏エクサン・プロヴァンス市裁判所は、2013年10月にグルジア政府の求めによりフランス国内で拘束されたケ